ファッションについて思うこと

保健管理センターカウンセリングチーム

リレーエッセイもはや 4 回目となりました。カウンセラーが思い思いのことを綴っており、一読者として私も毎回楽しみにしています。いざ自分の番となり何を書こうか迷ってしまったのですが、今回は好きなファッションついて日々思うことにしました。

私は服を眺めるのが好きで、仕事帰りに本屋さんでファッション雑誌を見たり、百貨店をよく覗きに行きます。百貨店のフロアは、規模にもよりますが、1階は化粧品、2～3階はレディース服…、そして 5 階くらいにメンズ服と分けられています。平日のお客さんが少ない時間に、のんびり見て回ることが癒しのひとときです。

たくさんのファッション雑誌や百貨店を眺めるうちに、ふと気になったことがあります。「メンズライクなレディースコーデ特集」はよくあるのに、どうして逆はないのだろう。雑誌の量や特集内容を考えても、百貨店のフロアの大きさを考えても、レディースファッションの方が種類は豊富です。それだけ需要が多くバリエーションも豊富ということでしょう。そのように考えると、「レディースライクなメンズコーデ特集」は需要や種類が少ないのかもしれません。

また、百貨店をよく観察してみると、メンズ服とレディース服は色味の傾向が違います。買う気はないけどぼーっと服を眺めていると、「男性にはネイビーやグレー系が人気ですよ」「女性だとアイボリーやベージュ系がよく売れてますね」など店員さんにお勧めされます。皆さんも一度や二度はそんな経験があるかと思います。その時、別に男性みんながネイビー系を好きじゃないし、女性がグレー系を買ったっていいじゃないか、とちょっともやっとします。もちろん店員さんに悪気はないでしょうし、売上の傾向として正しいオススメなのだと思います。でも、勝手に当てはめないで、ともやもやする自分がいます。

ついぼやいてしまいましたが、ファッションについて考える時、そこには「自分ってどんな人だろう」ということが関係してくるように思います。私はピンク色が好きだ、チノパンじゃなくてジーパンが好きだ、ぴっちりしたシルエットは苦手だ、などそれぞれの人に好みがあったり、大事にしているものがある気がします。「値段しか考えないよ」「サイズが合っていれば細かいことは気にしない」という人もきっといますよね。そういう方でも、値段やサイズを大事だと考えている、いわば価値観みたいなものがそこにはあるのではないでしょうか。

好みや価値観は人によって異なるわけですが、売られている服にも、「女性はこういうものが好きだろう」「男性にはこの色味が人気だろう」という作り手・ブランド・世間一般などの好みや価値観が反映されています。それらはファッションに内在される「社会的なイメージ」とでも言えるでしょうか。もちろん、売れない商品を作り続ければそのブランドは潰れてしまいます。特定のターゲットの特徴を踏まえ、できるだけ低コストの商品を作り、多く販売することで利益を生み出すことは大事です。でも、その「社会的なイメージ」を身にまとうことが、時々窮屈に感じられます。

あれこれと考え始めてしまったのですが、本屋さんでタイトルに惹かれて思わず手に取った

『ファッションの哲学』（井上，2019）という本を読んでみました。そこでの『容姿や服に関する強固な男女差は、男女両用の衣服に対して、わざわざ「ユニセックス」と銘打たなくてはならないことが端的に示している』との指摘は、あー本当にその通りだな、と腑に落ちました。『男性と女性は違っているということが、無条件に前提にされている』というジェンダーの問題がファッションにはあります。店員さんのお勧めで感じた私のもやもやの正体は、性別を見るのではなく自分の好みをちゃんと聞いてほしい、という気持ちだったのかもしれません。

また、現在開催されている『イヴ・サンローラン展』（国立新美術館）も観に行ってみました。イヴ・サンローランがどういう方かよく知らなかったのですが、駅の広告ポスターで見かけて気になり、足を運んでみました。とても華やかで素敵な作品が展示されていましたが、中でも作品の合間に散りばめられている言葉が印象的でした。特に、『For a long time now, I have believed that fashion was not only supposed to make women beautiful, but to reassure them, to give them confidence, to allow them to come to terms with themselves/ファッションは女性を装飾するだけではなく、彼女たちの不安を取り払い、自信を与え、自己を受け入れることを可能にさせると、私はずっと信じてきた（イヴ・サンローラン，2002）』の言葉はとても力強く感じました。

「fashion」を辞書で引くと、『流行』のほかに、『〈物・作品など〉を（手や道具で）形造る、創り出す』という意味があります。私が服を眺めて選ぶとき、ファッションがもつ「社会的なイメージ」も同時に含まれてきます。でも、それも含めて自分で選択できることが、好みや価値観を大切にし、自分自身のアイデンティティを形造っていくことにもつながるのだと思います。最後に少しだけカウンセラーっぽいことを書きましたが、皆さんも自分のファッション観をぜひ大切にしていただけたらと思います。

2023年 11 月 24 日

保健管理センターHP 『カウンセリング・メンタルヘルス相談』
https://www.titech.ac.jp/student-support/students/counseling/counseling

（参考資料）
井上雅人（2019）ファッションの哲学 ミネルヴァ書房
イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル 国立新美術館 https://ysl2023.jp/
南出康世編集主幹（2014）ジーニアス英和辞典第５版 大修館書店